

契約書第267号に基づく報告書・2000年12月～2001年4月

送風機の3680形軸受： 分解不要ですきまを縮小、 運転を継続

国営企業「ルミャンツェフ記念炭鉱」、アルテムウーゴリ国営持株会社・処理実施：BK XADO有限責任会社
(ドネツィク)、社長P.V.ナセドキン

ホルリウカ（ウクライナ）・2000年11月8日付契約書第267号・2000年12月15日処理開始・2001年4月16日付報告書

製品

XADOの処理剤
XADOの処理手順書に従った処理
・軸受あたり2,700 ml

処理対象

1号送風機の2号軸受
3680形・低速回転部、300 min⁻¹

文書種別

処理結果報告書
炭鉱および処理実施者の押
印付き

設備

作業開始時の状態

測定項目

1号送風機の2号軸受（3680形）

ラジアル内部すきま**0.29～0.31 mm**、
運転中、回転速度**300 min⁻¹**

運転時間**240 h**および**720 h**後のラ
ジアル内部すきま

処理前のすきまは、ホルリウカの試運転調整専門組織による測定値（運転日誌の様式1a）である。

主要な結果

↓ **16-24 %**

軸受のラジアル内部すきま、0.29～0.31 → 0.22～0.26 mm

ラジアル内部すきま：1号送風機の2号軸受

段階	運転時間	ラジアル内部すきま
処理前	—	0.29～0.31 mm
第1サイクル後（各8 hの3段階、1,350 ml）	240 h	0.28～0.30 mm
追加処理後（各段階の時間を3倍に延長）	720 h	0.22～0.26 mm

低速回転部の処理条件はメーカーと合意したものである。投入量は従来どおりとし、各段階の時間を3倍に延長した。軸受あたりの使用量は2,700 mlである。

報告書の結論

運転時間**720 h**で、1号送風機の2号軸受のラジアル内部すきまは**0.29～0.31 mm**から**0.22～0.26 mm**に減少した。当該軸受は分解せずに、軸受交換も送風機の運転停止も行うことなく、現場で再生された。低速回転部（**300 min⁻¹**）では、処理時間を標準の処理手順書で定められた時間の3倍に延長する必要があった。この処理条件はメーカーと合意のうえ、報告書に記録されている。委員会は次のとおり記録している：「ラジアル内部すきまの減少は、軸受の損傷した表面層が再生され、今後も使用を継続できることを示している。得られた良好な結果は、石炭産業を含む産業設備におけるXADO技術の適用の有効性を示すものである」。

XADO

© XADO. 無断転載を禁ずる。

本結果は、炭鉱の低速送風機（300 min⁻¹）の3680形軸受に関するものであり、他の部位や運転条件では測定値が異なる場合がある。署名・押印のある報告書の原本は全文が公開されており、ダウンロード可能である。